

▼ すべての人が参加できる社会を目指して▼

校長 阿南 孝也

中学1年生対象の特別授業として、松永信也さんから話を伺うことができました。松永さんは40歳のときに難病によって失明されました。訓練を重ねた結果、白い杖を頼りに一人で外出され、専門学校の講師や講演活動を続けておられます。

毎年本校へは、2週にわたってお越しいただいています。1回目は学年全体に向けて、視覚障がい者への正しい理解、お手伝いの方法などを、わかりやすく話してくださいます。2回目はクラス毎に、生徒の質問に答える形で行っています。

松永さんのお話を伺うと、正しい知識を得ることの大切さを痛感させられます。「電車のドア付近で立っているのは空席があるかどうかわからないから。目が見えないと体のバランスがとりにくい。空いた席があれば、ぜひ声をかけて席まで誘導してほしい。」「サングラスをかけるのは、白杖は足元の情報しか伝えてくれないので、木の枝やつるされた看板などが目に当たるから。」など、知っていれば、お手伝いできることや改善できることがあることが分かりました。

医学の進歩は大きな力です。ノーベル賞受賞者の山中伸弥先生が開発された iPS 細胞を用いた再生医療により、加齢黄斑変性症のために失明した大勢の人の視力回復が期待されています。大村智先生は、網膜に入って失明させる寄生虫に対して、土壌から発見したバクテリアを用いた治療法によって2億人を失明から救いました。

音声入力や点字プリンターをはじめとした科学技術の進歩は、障がいを持った方の情報伝達を手助けしています。シャンプー側面のギザギザ(リンスにはない)は最初に導入した花王が新案の権利を放棄した結果、普及が進みました。パソコンキーボードのFとJに突起があるのは、米国通産省の強い指導によるものだそうです。

「見よ、私は彼らを北の国から連れ戻し、地の果てから呼び集める。その中には目の見えない人も、歩けない人も共にいる。・・・彼らは大いなる会衆となって帰って来る。私は彼らを慰めながら導き、流れに沿って行かせる。彼らはまっすぐな道を行き、つまずくことはない」
エレミア書31章8節

「すべての人が参加できる社会を作りたい。」松永さんは強い思いを持って、その種まきをされているのだと思います。洛星の生徒たちが、いただいた種を大切に育てて、将来活躍するそれぞれの場所で花咲かせてくれることを願っています。

洛星中学高校で学ぶ子どもたちが、誰もが暮らしやすい社会実現のために働く、優しく強い志を持った青年として成長してくれることを願ってやみません。